

研究成果情報	園芸	6	野菜	栽培
新技術・情報名	隔離床による高品質トマトの栽培法		分類	①

1. 成果の内容

1) 技術、情報の内容及び特徴

トマトは、土壌水分の調節が容易な隔離床を使用することにより、果実が硬く、果汁糖度も高い、日持ちや食味に優れた高品質果実が生産できる。

(1) 隔離床は、幅が広く高さが低いと、土壌水分の乾湿の差が大きく、草勢が乱れやすい。高さが高いと土の出し入れや誘引などの作業性が悪くなる。低床（高さ20cm）は高床（高さ40cm）に比べ、節間長が長く、茎も太く草勢が強くなり、1果重は増加するが、空洞果の発生が多くなるので、幅は35cm高さは30cm程度にする。

(2) 開花は最低夜温8℃で管理した地床栽培に比べ、最低夜温4℃前後で管理した隔離床栽培は、第2段花房以後やや遅く、収穫始めが遅れ、収穫までの日数は20日程度多くなるが、果実硬度は2kg以上、果汁糖度も6以上と安定して高くなる。

2) 技術・情報の適応効果

果実が硬く、糖度が高い、日持ちや食味に優れた高品質トマト生産が可能である。

3) 適用範囲

県下全域

4) 成果の利活用・普及指導上の留意点

- (1) 隔離床栽培は、採光性のよい1条植えとして、定植後は十分に灌水し活着を促す。
- (2) 灌水は、散水や噴霧タイプにより隔離床全面に行い、根群を広くする。
- (3) 省力化を図るため、自動灌水法を確立する必要がある。

2 具体的データ

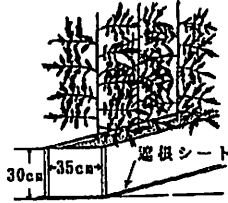


図1 隔離床の栽培方法

表1 各花房の開花日 (平成2年)

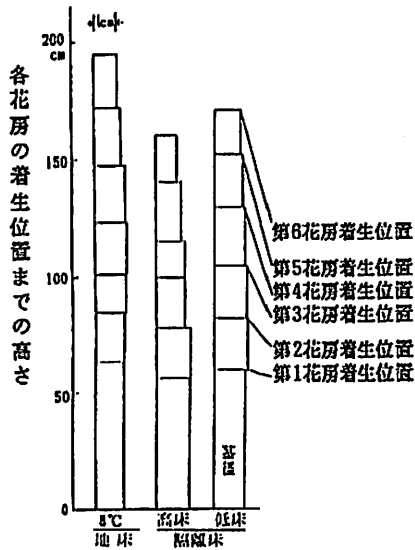
試験区	第1花房	第2花房	第3花房	第4花房	第5花房
隔離床 高床	11.5	11.18	11.30	12.9	1.6
低床	11.5	11.19	12.1	12.14	1.11
地床 8℃	11.5	11.16	11.29	12.6	12.26

注) 隔離床の最低夜温は4℃

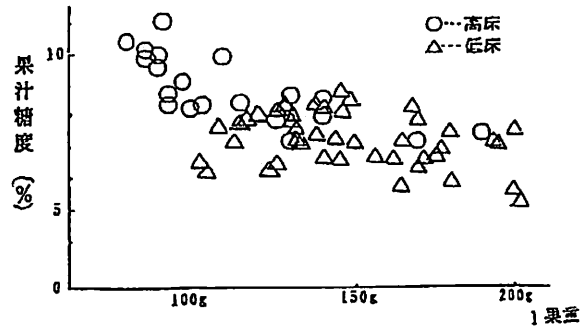
表2 収量と果実品質 (平成2年)

試験区	収量果数	平均果重	収量	空洞果数	果汁糖度	果皮硬度	開花から収穫までの日数
高床	28.4果	140g	8.8t	0果	7.9%	2.3kg	121日
低床	26.5	167	9.7	3.2	6.8	2.0	123
地床	27.0	132	8.6	0	6.0	1.6	102

注) 収穫果数は1株当たり、収量は10a当たり



第2図 地際から第1花房間までの高さ(平成2年)及び各花房間の節間長と莖茎



第3図 隔離床栽培における1果重と果汁糖度 (平成2年)

3 その他特記事項

担当部科室名：園芸研究所 野菜花き部 野菜栽培研究室

研究担当者名：豆塚茂実、山本幸彦、小野剛士

研究課題名：丸型完熟型トマトの栽培技術確立

期 間：平成元年～平成3年

予算区分：経常

既発表論文・資料名等：平成元年度野菜試験成績書

1992年度園芸学会雑誌 第61巻 別冊1

取りまとめ責任者名：豆塚茂実